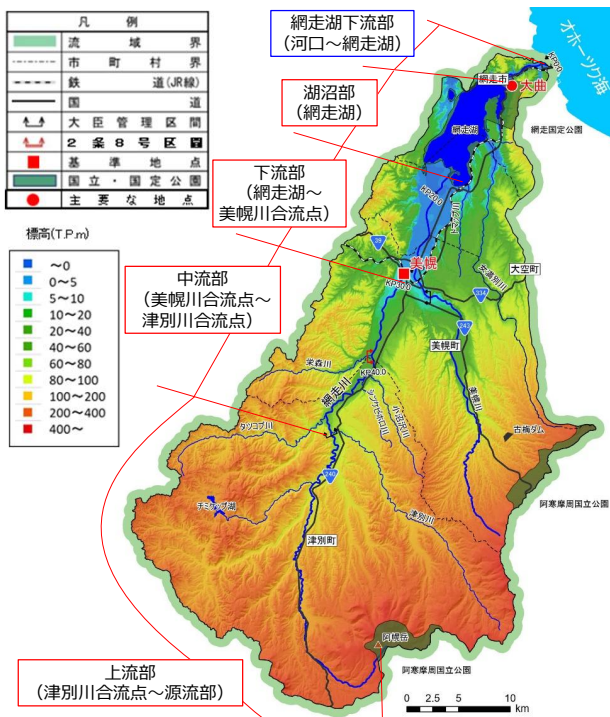


気候変動を踏まえた「網走川水系河川整備基本方針」変更の概要

あばしりがわ

- 長期的な河川整備の目標となる洪水（基本高水）のピーク流量を、基準地点美幌において1,200m³/sから1,500m³/sに変更。
- 気候変動の影響による洪水外力増大と海面水位上昇に対し、既存施設の有効活用や新たな貯留・遊水機能の確保、河川環境・河川利用や地域社会への影響等を総合的に勘案して検討し、基準地点美幌における河道配分流量を1,500m³/sとした。また、網走湖の計画高水位を上げることは困難であることから、網走湖上流において流入量を一時的に低減させる新たな貯留機能を確保し、主要な地点大曲における河道配分流量を490m³/sとした。
- 森林の整備・保全等による貯留機能の拡大、防災拠点の活用や避難所運営訓練等の啓発活動等、流域治水の取組の更なる推進を図る。

河道と貯留・遊水機能確保による流量配分の考え方



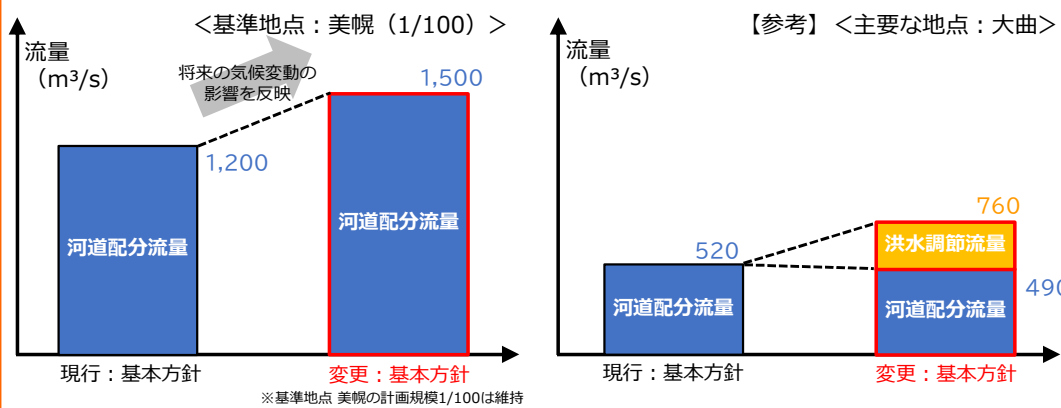
【網走湖下流部】

- ・ 沿川の土地利用や生産空間への影響を踏まえた河道配分流量の増大の可能性を検討。

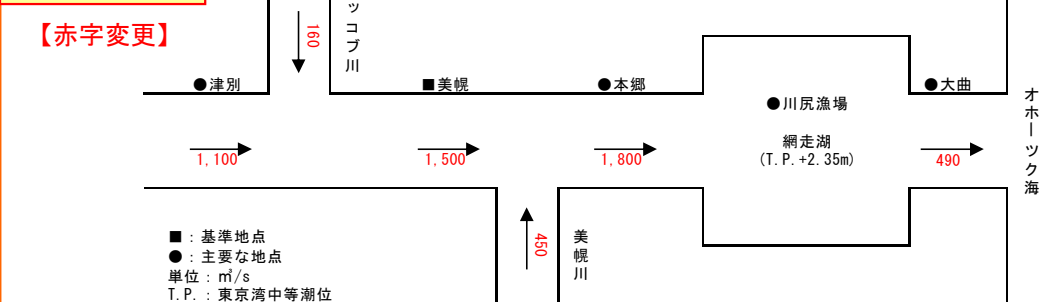
【湖沼部～下流部～中流部～上流部】

- ・ 土地利用や生産空間への影響等を踏まえた新たな貯留・遊水機能の確保の可能性について検討。
- ・ 地域社会への影響や河川環境・河川利用への影響等を踏まえて、河道配分流量の増大の可能性について検討。

河道と洪水調節施設等の流量配分



計画高水流量図



河道での対応

- 高水敷利用に配慮し、低水路の掘削をすることにより、基準地点美幌における河道配分流量を1,500m³/sとする。
- 温暖化による将来の海面水位上昇にも対応できるよう必要な対策を実施する。
- なお、網走湖は環境省の重要湿地に指定されており、湖岸には国の天然記念物に指定されている女満別湿生植物群落等があるため、計画高水位を上げることは困難。



洪水調節施設等での対応

- 主要な地点大曲上流において、新たな貯留・遊水機能の確保により、主要な地点大曲の河道配分流量を、網走湖水位が計画高水位である2.35m以下となる490m³/sまで低減する。
- 生産空間の持続的な活用を図る観点から、出来るだけ営農が継続されるよう、土地利用の将来像も踏まえながら貯留機能の確保を図ることが重要。

